校舎を吹く風も日に日に暖かさを増し、柔らかな日差しに春の訪れが感じられるようになる今日この日、私たち百十名は、三年間学んだ校舎を後にし、それぞれの道に向かって歩み出そうとしています。

本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な卒業証書授与式を挙行していただき、卒業生一同心より御礼申し上げます。

思えば、あっという間に過ぎた三年間でした。新型コロナウイルスの影響の中で迎えた入学式は、皆マスク姿でした。学校生活に対する自信も無く、誰にも話しかけられないでいた私に、その場にいた同級生が話しかけてくれたことを覚えています。そこから少しずついろんな人と話すことができるようになり、学校生活を送ることに自信がついてきました。

中学生の頃、不登校だった私は、今度こそ、ちゃんとした学校生活を送ろうと思い、寺井高校への入学を決意しました。最初の定期テストで自分の考えていたより良い点数が取れ、前向きに勉強に取り組むことができるようになりました。一年生の産業社会と人間の授業で上級学校見学をする機会がありました。そこで見た自分のやりたい勉強に励む学生の姿にあこがれを持ちました。私も上級学校で学んでみたい。そして、学んだ知識を使って社会で働きたいと考えました。勉強をすることも楽しくなり、学校生活にも積極的に取り組むようになりました。

私たちの学年は、先生方からよく団結力があるといわれます。修学旅行や寺高祭等の学校行事では、集団行動が素早く何事にも積極的に行動が取れると褒めてくださいます。だからこの学年は、私にとって居心地が良い学年です。何か皆の役に立つことがしたいと考えていたときに、同じクラスの生徒会の二人が生徒会役員をやってみないかと声をかけてくれました。生徒会役員として心に残っていることは、体育祭です。新しい種目を追加するアンケートや当日のアナウンス、リレーの実況など、裏方の仕事をしました。体育祭は盛り上がり、終わった後の達成感はとても良い経験だったと思います。

三年生に進級した時に、公立小松大学の先生のお話を聞きに行きました。私は、先生の研究と研究に対する先生の熱意に感動しました。私もこんな熱い思いで研究している大学で勉強したいと思い、公立小松大学への進学を決意しました。入試は、推薦と一般入試の二段構えで受けることにしました。推薦入試のための志望理由書の添削は何度も書き直し、たくさんの先生の支援を受けて良いモノにすることができました。そして、口頭試問と面接の練習も始めました。面接では、具体性に欠けることしかいえず心が折れてしまいそうでした。しかし、チューターの先生の手厚いサポートのもとで、自分の言いたいことが言えるようになり、口頭試問も答えられるようになり、試験当日も実力を出し切ることができました。合格が決まったとき、職員室で先生と一緒に喜びました。

令和六年一月一日十六時十分、穏やかだった正月が一変しました。けたたましく鳴る地震警報・津波警報はとても不安になる音でした。そのとき私は外出しており、今まで経験したことのない揺れに、慌てて家に帰り、家族と無事を確認し合いました。テレビをつけると地震速報しかやっていません。それから毎日地震のニュースです。窓ガラスが割れ、柱が折れ、倒壊した家屋、歪んで亀裂の入った道路、とても悲惨な状況です。津波や地震、土砂崩れのため家族が亡くなった方のニュースはとても胸の痛い内容です。能登の小学生や中学生が白山市の施設から学校に通っているニュースを見て石川県全体が地震の影響を受けていると実感しました。私たちにできることは何かと考えました。今の私たちには大きなことはできません。しかし、私たちの多くは、石川県で就職・進学します。私たちがそれぞれの場所で誠実に責任を果たすことで地域を活性化させ能登半島を含む石川県が復興する手助けをしていきます。

在校生の皆さん、これから先の寺井高校は皆さんが引っ張ってください。令和七年度に創立六十周年を迎える伝統ある寺井高校をもっともっと魅力ある学校にしてください。

最後になりましたが、今まで私たちを優しく、時に厳しく指導してくださった先生方、ありがとうございます。毎日お弁当を作ってくれ、通学のため、三年間送り迎えをしてくれた家族、本当にお世話になりました。初めて出会った日から今日まで、支え合い、刺激し合った同級生、楽しい時間をありがとう。この三年間私たちを支えてくれた全ての人に感謝の気持ちを込めて答辞といたします。